

セイヨウナシ黒斑病

棚 橋 恵

Megumu TANAHASHI:

Studies of black spot caused by *Alternaria alternata* on European Pear in Hokuriku District

はじめに

新潟県内の西洋なし栽培ほ場で、1992年頃より葉に黒色不整形斑点を呈する障害が発生し、その被害が問題となった。そこで本障害の発生原因や防除対策に関する試験を、1995年から新潟県農業総合研究所園芸研究センター（旧称：新潟県園芸試験場）が取り組んだ。その結果、本障害の原因がセイヨウナシ黒斑病であることを解明した。本稿では、これまで得られたセイヨウナシ黒斑病の研究結果及び今後の研究展望について紹介する。

発生生態及び防除に関する研究成果

本病は、芽及び葉に症状を呈する。芽は、花芽および葉芽が褐変～黒変し、程度の激しい場合は腐敗する。葉は、最初褐色～黒色の不整形斑点を生じる。やがて病斑は拡大し、発病程度の著しいものは落葉する。病原菌を、*Alternaria alternata* (Fr.) Keissler と同定し、本病をセイヨウナシ黒斑病と呼称することを提唱した（1998. 棚橋ら, 2001. 棚橋ら）。本病は、新潟県内の西洋なし栽培産地で発生している。発生には、ほ場間差及び年間差が認められる。新潟県以外では、福島県の“ル レクチエ”において本病が発生したとの報告がある（私信）。腐敗芽と病葉発生は、高い正の相関関係が見られる。罹病落葉、枝及び腐敗芽が翌年の一次伝染源になると考えられる。本病は明らかな、品種間差異を有し“ル レクチエ”以外の品種では、“ゼネラル・レクラーク”で発病が認められている（2003. 棚橋ら）。山口ら（2003）が、有効薬剤の検索及び防除適期に関する試験を実施し、本病の薬剤防除法を明らかにした。また近年、果実に原因不明の黒点症状が発生し、問題となっ

ている。セイヨウナシ黒斑病発生ほ場で果実黒点症状の発生が多いことから、本病との関係が示唆されている。詳細については、現在研究中である。

おわりに

本病の防除対策は、これらの研究成果を踏まえ新潟県のセイヨウナシの防除暦として提案されている。しかし、本病は新病害であるため未解明な部分が多い。これらの部分を明らかにし、他の西洋なしの病害（輪紋病等）を含めたより完全な防除技術の構築が必要と考えられた。今後は、抵抗性品種の開発に向けた抵抗性機構の解明等が必要と考えられる。また本病の毒素や遺伝子学的研究が Otani (2000) により行われており、今後の成果が期待される。

参考文献

- Otani et. al. (2000) *Alternaria alternata* apple pathotype causes black spot of European Pear. 1st Asian Conference on Plant Pathology.
北陸農業研究成果情報 第17号 (2001): 39~40.
棚橋 恵・山口吉博・横山泰裕 (1989) 新潟県に発生した西洋ナシ黒斑病 (新称) 日植病報 64:434.
棚橋 恵・山口吉博 (2003) セイヨウナシ黒斑病の防除 (1) 発生実態と一次伝染源. 平成15年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集
山口吉博・棚橋 恵 (2003) セイヨウナシ黒斑病の防除 (2) 薬剤防除効果と防除時期. 平成15年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集